

# 職人の技術力 体感を

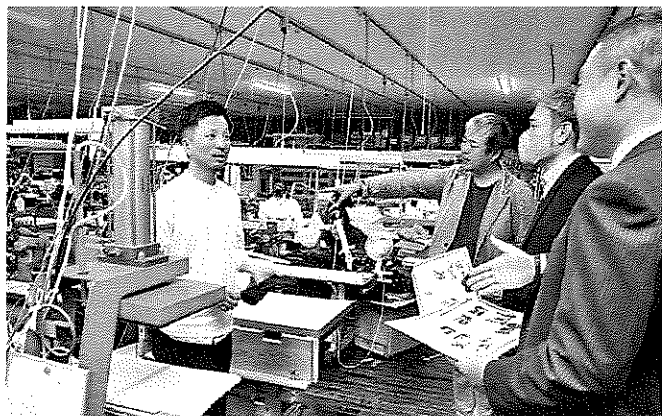
縫製業が盛んな東讃地区で、企業の有志らが、ものづくりの魅力に触れる体験型イベントを開催する。町工場が一体となって工場を開放し、職人との交流を通じて自社の技術力や強みを発信する「オープンファクトリー」の取り組み。実行委員会は「大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭が開かれる2025年を見据え、地域の産業や観光振興につなげたい」としている。

## 東讃企業有志がイベント

## 地場産業、観光振興へ

東讃地区は県内でも特に人口減少と高齢化が進み、縫製業をはじめとした地場産業の衰退や企業の担い手不足が課題となっている。企業や地域の活性化につなげようと、県中小企業家同友会東讃支部の会員を中心に2年前から先行事例の視察などを重ね、今年2月に実行委を立ち上げた。

取り組みは「CRASSO(クラッソ)」と名付けた。第1回は6月9、10日の2日間、アーバン工芸、江本手袋、タナカ印刷、タナベ刺繍、生新ルボア(以上東かがわ市)、椋原工業、タイコープロ



工場見学のプランなどを話し合う実行委のメンバー—さぬき市

## 来月、関係者ら工場見学

ダクト(以上さぬき市)の8社が参加して開く予定。初回は公開せず、第2回以降の参加を検討するメーカーや観光の関係者などを対象に工場見学やワークショップなどを行う。

4月末には、タイコープロダクトに実行委のメンバーが集まり、工場見学などのプランを練った。作業現場での突き刺しや挟み込み事故を防ぐ同社の手袋の技術力を来場者に体感してもらおうと、突起物の上で腕立て伏せをもらう案などが出ている。

25年を一つの目標に参加企業や訪日客の来場などを増やし、新たな地域の見どころへの成長を目指す。メンバーは「回を重ねながら輪を広げ、25年には瀬戸内を国内外から注目される『ものづくりの聖地』にしたい」と話している。